

私の一文字「挑」

副代表幹事
新浪 剛史

サントリーホールディングス
取締役社長



「挑む」ことは成長の糧

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、新浪剛史副代表幹事にご登場いただきました。

新浪 新型コロナウイルスが蔓延したことで、いろんなところに諦めムードが漂っています。私たちは飲食業さんと非常に親しいものですから、「飲食もできません」といった「できない」という話が多いんですね。でも、それなら「できるようにしようよ」と発想を変えないと、雰囲気がみんなネガティブになってしまいます。フェイストゥフェイスも挑まなければ始まらない。フェイスシールドを開発し飲食店を盛り立てようと提案をしたら、賛同してくれる人たちが現れました。「皆でやろうよ」ということが何かが起こる一番のポイントです。コロナゆえにできないと思ってしまうと、われわれの人生は本当につまらなくなりますから。書いていただいた文字は大変力強く、満足しています。

岡西 ありがとうございます。昔は占いをするとき亀の甲羅の割れ目によって答えを導き出したといわれていますが、「挑」という漢字は、その甲羅の割れ目を象ったもの。手で亀の甲羅の割れ目を作っていく、が転じて「挑」という漢字になったといわれています。漢字が持つ「道を導き出す」という意味に新浪さんをイメージして最後の払いを力強く書かせていただきました。

新浪 素晴らしい。人が何かに挑戦すれば失敗もたくさんします。でも、その中で自分の成長があるし、組織の成長もあります。挑むことは成長の糧だと僕は思っています。

岡西 挫折しても諦めない、根底には何があるのでしょうか。

新浪 最後は何とかなるかな、という思いです。何事もやり抜く人は、最後は楽観的なところがあると思います。僕は25年くらい社長業をしていますが、会社には大きな波が必ず来ます。良いときはとにかく謙虚にならなくてはいけない。悪いときに備える必要があります。なぜなら悪いときは必ず起こるからです。良いときにこんなものでいいや、とのんびり流れに任せてしまったら、悪いときが来たときにその傷は深くなる。良いときでも目標を高く掲げて努力することで、傷は浅く戻ってこられるのです。それが分かったのはローソンの社長をしていたときでした。

岡西 そんな新浪さんが2014年にサントリーホールディングスの社長に挑まれた理由は何でしたか。

新浪 一番大きい理由は、人間の出会いです。会長の佐治信忠とは知り合ってもう20年になります。佐治のようなとてつもない決断力のある経営者と一緒に仕事をしたいという思いからでした。米国のビーム社を買うので、私も挑戦するからあなたも一緒に挑戦してくれ、と言われたのです。ビーム社のことはよく知らなかったし、オーナー系の会社も僕にとっては初めて。しかし、佐治との二人三脚だから挑戦できました。

岡西 二度目の副代表幹事に就任された理由は何でしたか。

新浪 やはり人です。今後、米中関係はますます悪化するだろうし、政治や経済、地政学全てが一度目とは違う。経済同友会は、櫻田謙悟代表幹事をはじめ、大変ユニークなリーダーの集まりで、現状維持では駄目だとの強い思いがあります。皆で一緒になって日本のために貢献していけたらと思っています。



書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。